

収益力が高く、次代を担う若者にとって、やりがいと魅力のある千葉県農林業の実現に向け、消費動向の変化や地球温暖化などに対応した新たな技術開発や品種育成等、生産者の期待に応えられる研究を横断的に展開できるよう、農林総合研究センターの機能強化を図っている。

※平成 24 年度農政審議会にて検討

1 機能強化の基本的な方向（機能強化の基本構想策定（平成 25 年 3 月））

- (1) 規模拡大と高付加価値化に向けた研究の推進
- (2) 本県オリジナルブランドとなる新品種の迅速な育成・普及
- (3) 環境変化に対応し、生産を下支えする研究の強化
- (4) 効率的・効果的な研究体制の構築

2 機能強化に向けた取組（機能強化の基本計画策定（平成 26 年 3 月））

- (1) 横断的研究を強化するための研究マネジメント室の新設
- (2) 重要な課題に対応する最重点プロジェクト研究室の新設
- (3) 育種と栽培研究の一体化、育種品目の絞り込み
- (4) 水稻や露地野菜等の大規模経営に対応した研究強化
- (5) 機械化・軽労化に関する研究の推進
- (6) 温暖化等の気候変動や鳥獣害に対応する研究強化 など



チーバベリー



Qなっつ

《近年の主な成果》

- ・イチゴ「チーバベリー」、落花生「Qなっつ」、水稻新品種の育成
- ・落花生を取り入れた露地野菜の輪作体系、「Qなっつ」の栽培法の確立

3 新本館の建設（着工：平成 30 年 3 月 供用開始予定：平成 31 年度）

(1) 概要

本場地区内に分散する 10 施設を 1 棟に集約して建替え（千葉市緑区大金沢町）

- ・ 延べ床面積：5,732 m²
- ・ 構造：鉄筋コンクリート造 2 階建て
- ・ 総事業費：約 32.5 億円



完成予定図

(2) 特徴

- ア 研究員の連携を促進するための執務室のワンフロア化
- イ 研究機器の共同利用が可能な実験室の整備
- ウ 先進農家等と共同で課題解決に取り組む共同利用施設（オープンラボ）の設置